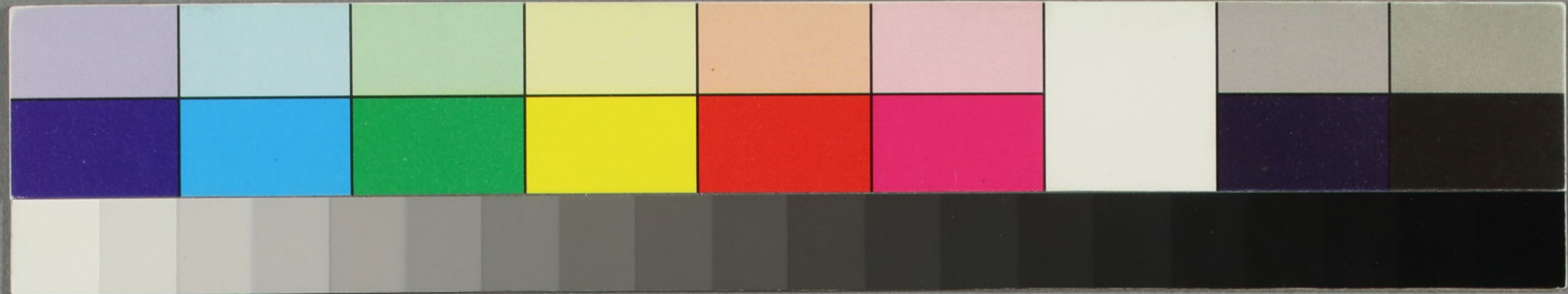


役者評判記

手18
3849
111





嘉永
六

後者四流波
上

多13
236
~~18~~
170

特
千13
3849
111



門子
漢
卷



蘇州府

顔ミセ之ハ母ハのハ旗ハいハま

朝ツキ暮ハせハうハうハ経

くハとハ擲ハきハ鼓ハの

音ハいハ津ハま

一ハ陽ハ未ハ録ハの

村ハ炭ハ多ハうハり



火ハ笹

うハらハあハんハト

キリノの松ふく
あも其すまも

十分ふ栄むと
咲も大物杖

下戸も上戸も
あべま

永堂見婦の
あべま

花洛大
名譽

系大板大系板板板板板

系四條板板板板板板板板板板板

同 南板板板板板板板板板板板

○見立板板板板板板板板板板板

△板板板板板板板板板板板板板板板

▲五段巻巻

大上吉 尾上多具巻

か板板板板板板板板板板板板板板板

▲床錦三幅刺

右産 板子行園我童

お板板板板板板板板板板板板板板板

中 上吉 後藤実川延三節

ヒイキ板板板板板板板板板板板板板板板

左産 大長山嵐巻

お板板板板板板板板板板板板板板板

▲五段之部

至上書 市川園翁 小

大御所の御自筆の初曆

西至上書 市川龍十郎 日

和実のとり合のよの榜紙

至上書 三掛梅舎 日

はむ人のかけまのぬ骨骨

至上書 尾上松壽 日

古風がゆつてゆつての強弱

至上書 市川流十郎 日

室屋のふりまのての難を被初

至上書 中山文七 日

よくとと整うるまのとと

上上書 三掛源之助 日

中川しぐと若むかちんとうふ

上上山 中村勘十郎 日

おし若巻の若あの餅つと

上上書 嵐斎浄 日

ちとわりのくろい味の五山堂

上上書 嵐興市 日

尾上多麻尾 日

上上書 中村約三郎 日

町雛助 日

上上書 嵐指次郎 日

若巻のまのりたの難奏

上上書 三掛縮丸 日

市川市翁 日

上上書 三掛他人 日

中村欽十郎 日

上上書 行長秋重 日

父のりかゝるはこれら田圃の日

上上

- 市川市木帝 △
- 坂東秀於 勇
- 嵐橋外 水
- 中村斎帝 水
- 市川新十帝 水
- 三掛大次帝 △

いんぐとつとあたる 好子板

上上

- 尾上和市 勇
- 市川森之助 △
- 嵐芳三帝 水
- 浅尾市松 △
- 行長秋冬助 △
- 実川延次帝 △
- 市川宗升 水

いんぐをかき舟のねふ拍餅

上上

- 市川助太帝 △
- 尾上格松 勇
- 嵐橋春彦 △
- 市川市春 水
- 嵐橋翁 水
- 嵐園持 勇
- 中村芝丸 勇
- 尾上冬之丞 勇
- 中村梅枝 △

いんぐのよの葉をころもを競る

- 尾上冬之丞 勇
- 市川徳之丞 水
- 市川猿十帝 △
- 行長柳翁 △

上

実川実子
三折徳又希
寛徳又希
淡尾史文希
中山栄三希
中村成又希

正三折系舟物 正 行長市子之
正 実川内子良 正 尾上栄希
正 市川流子 正 中村源次
正 中村小田希 正 尾上康子
正 淡尾希云 正 実川寛希
正 行長松尾 正 行長希子良
切上吉 中山百希

わとまをかろりやハ大級

▲五段後見

真上吉 市川助壽希 △

侍内お持美々々々々氷餅

▲実西巻段

大上吉 行園市希 △

はかふがやると尾端の魚掛網

▲実西秋段外之部

上上吉 中村友三 弟

見西一統はかふの出端と松付

上上吉 寛冠十希 △

付申て居りのよハ燈籠

上上吉 中村養志の 弟

実西史文のくはと勝兜

上上吉 姉川新栄希 △

たのまののらふれ有るは

上上吉

大谷廣為山

尾の山をせり其節兼

上上吉

市川市友勇

多切ごりよのふのよの原様

上上吉

生駒實忠山

秋村を新近おりのまを互

上上吉

中村伴茂山

ごんごり内実の八栗祝

上上吉

浅尾為十郎山

山ごとおおりのりまを互

浅尾内也勇

三掛宗秋山

中村捷中山

実川大八勇

行巻謙十郎山

行巻謙九郎山

これらも多しおのり

中村欽富山

実川龍翁勇

実川兼茂山

多將次郎三山

大谷了十山

市川助六山

中村車丸山

市川三茂山

中村久重山

尾上松九山

坂田九國山

ごんごり味のよー ちま丸

上上

上上

上上

浅尾為高有
 中村為助有
 行松十郎有
 中山百彦有
 実川実次郎有
 行松市九郎有
 嵐次三郎有
 中山仲彦有
 行松為之次有

送金巻(いふ)角のりまき様

市川助次郎有
 行松松之次有
 板东園彦有
 松平深次郎有
 市川忠次郎有

上上

中村為高有
 市川森助有
 浅尾五六有
 市川核重有
 嵐寛次郎有
 嵐徳次郎有
 中村為助有

上中村為次有 一上 天谷廣次郎
 上行松高有 一上 嵐松九郎
 上中村友二有 一上 中山文重
 上中村伴八有 一上 中村権三
 上中村五六有 一上 行松又十郎
 上行松豆斗有 一上 中村為高

▲若女形巻頭

大上吉

中山南枝

有

ぬれりいしよもいふ米の地

▲若女形之部

上上吉

嵐三六わ

胸ハハ病幸七お後七外男七

上上吉

中村大夜 △

身一さのハ上おを離衆

上上吉

後川友夜 わ

どこもわしとも引寄室引

上上吉

実川南夜 身

どあてもし格子のそふ七州

上上吉

沢村其夜 △

今や一お脊が上とと敷以夜

上上吉

市川壽夜 △

舞の仕のキ下さかハ後夜離

上上吉

中村千夜助 △

及もあもろりハ推夜場

上上吉

行思夜助 △

どんぐひうさうけの後夜助

上上吉

中山一徳 身

お娘とあつくりつる若水

上上吉

尾上芙蓉

のりともあづけのよき若水

上上吉

中村登夜三

色吹めつらとあつた後夜

上上吉

中村梅夜 水

女うこのおあつたお後夜

上上吉

嵐持夜

お持中人のあつたお後夜

上上吉

嵐持夜

上

坂川八尾 △
 中村不備 水
 浅尾南枝 南
 坂川八尾 糸
 中村琴糸 △
 尾上松光 △
 嵐橋登 △
 嵐橋尚 水
 尾上尚朝 南
 山下里城 △
 中村榮糸 △
 中村榮糸 糸
 尾上松之丞 南

これより右へは門松

上

姉川みきと △
 山下金枝 水
 市川揚三糸 水
 中村秋三糸 南
 町三衣 △
 浅尾里前 △
 嵐野之助 △
 尾上梅久 △
 尾上春繁 △
 三井三次糸 南
 中村友女 △
 実川榮尾 △
 中村とも久 △

これより右へは

若女形巻巻

至正吉

山下金作

水

物段とあそびたもろくろの藤條

▲角張製娘形子殺之部

上上

中村玉七

水

御ヒイキハヒ上もあい初織

市川末翁

△

嵐和三郎

△

中村松翁

△

市川義信

△

中村政彦

△

市川猿彦

△

芳沢園彦

△

市川白翁

水

行長松之助

△

中山宗之助

△

別してお子達の膝かひあそび

市川安之丞

△

中村養彦

△

実川延之丞

△

市川猿彦

水

市川市翁

水

市川仁之丞

△

市川高羅猿

△

行長清彦

△

市川玉猿

△

中村安彦

△

中村豹彦

勇

実川延之丞

勇

中村秋市

△

市川龜彦

水

上

上上

ちと指りそひのわらふ海

▲多岐巻頭

三撰大又帝角

人あたまは人のあたま

▲美女形取後見

中村富太郎△

國語被る中一巻のり

▲頭取之部

市川團六

市川團六

市川井秀

中村方六

小 例 芝 拵

行長秋久秀

中村富太郎

市川仲六

市川井秀

中村富太郎

南 例 芝 拵

△狂言作者之部

嶺秀八半助

宗河正徳

炭琴岩松

成田和助

宗河七五郎

色松九多造

橋田寿賀

小 例 之

症

松籟亭助

菊

銀杏藤助

松芳助

成田胤助

二葉芳助

清原長春

三葉芳助

金沢芳助

奥井辰助

並木羽摺

症

清水正七

▲雜子方部

小例之症

一長須富士高峯 一三條井登坊之亦

一白 五村平長 一白 中村深長

一沙 廣川定實 一長 中村南長

一誓 世寂美大助 一三條 井登坊七

一隆 竹平好美 一三條 井登坊遠

一白 竹平壽美 一白 井登坊助

菊例之症

一長 花房守七 一三條 竹平美大

一白 花房美長 一白 竹平好美

一三條 花房定長 一三條 井登坊遠

一日 持在正隆一日つは小布
一持世家美入曲

千繩万葉集

大く叶

一寸以披あ中と外

嘉永六年二月十七日

歌成院歌集日龍信士

寺八中角常里

無類（詠）中村秋成

俗名 行年五十七

持世州

うらみ 梅あり

歌成院中村秋成様御遺言

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

御遺言に依りて日本歌の大成を
成りての歌集に云々三巻若例

おもしろく九日経済するところの格
浪義市中の事及至重宝を記す所の
金銀等と相合たれば事金銀等と
知れ大坂市中の事と相合たれば事
金銀等の切しと成せぬものあり
式はとて其表裏方より論中村家流
大なる時市流南校校者等と外
後若流中も相合たれば事金銀等
事流中も相合たれば事金銀等
かく両方流中も相合たれば事
おもしろく九日経済するところの格
浪義市中の事及至重宝を記す所の
金銀等と相合たれば事金銀等と
知れ大坂市中の事と相合たれば事
金銀等の切しと成せぬものあり
式はとて其表裏方より論中村家流
大なる時市流南校校者等と外
後若流中も相合たれば事金銀等
事流中も相合たれば事金銀等
かく両方流中も相合たれば事

【註】

浪義市中の事及至重宝を記す所の

おもしろく九日経済するところの格
浪義市中の事及至重宝を記す所の
金銀等と相合たれば事金銀等と
知れ大坂市中の事と相合たれば事
金銀等の切しと成せぬものあり
式はとて其表裏方より論中村家流
大なる時市流南校校者等と外
後若流中も相合たれば事金銀等
事流中も相合たれば事金銀等
かく両方流中も相合たれば事
おもしろく九日経済するところの格
浪義市中の事及至重宝を記す所の
金銀等と相合たれば事金銀等と
知れ大坂市中の事と相合たれば事
金銀等の切しと成せぬものあり
式はとて其表裏方より論中村家流
大なる時市流南校校者等と外
後若流中も相合たれば事金銀等
事流中も相合たれば事金銀等
かく両方流中も相合たれば事

相番社席落り客社名内記

二階社名 おとく徳一 妻ありと海
味方と夜世の刻と実

本床傍摺

二柄玉堂写 繪縁

主亮 火

香炉

ワタ 口

床後湯具櫃

生亮法山 燈火供

歌成院 既在日能信士 前骨多

生亮法山 火法山

焼金大形

約縁

うら田

金原風二双

東部 豊田画 梅五十二化 繪西

伴 十冬 冬を牧

ダンツツチ 夜

初子向

分 山村 三法 中村 彰

妻乃

名

森 世嘉 大助

かまがひ 目先よのら 六つ

あせ 日小 せしと かのひ ぞつ

あぢや 淡多のら かつと せのふ

清き 燈りも 魁の 花と ちり

あん 祝す 光

榎 大新

柳く

森 山村 只

三 三 三

三 三 三

三 三 三

白雲子内

妻 舞 中村 玉七

夏 舞 日 秀 苑

地

あま女

三 彦

新三郎

家内八平代令

地

あま女

春代くのはな 詞 苑 壽

学 翁 揚

春 子 先 舞 秀 苑

加茂 亦 夜 院 秀 苑

コトイロ

舞 八 秀 苑

但 幕 子 舞 中 女 形 二 人 合

あゝととて

吉 小 女

舞 秀 苑

振 山 村

是ヨリ本を向秀の算翁補

松行梅 舞 舞 苑

三 小 女

舞 秀 苑

花は流石のふれえをのまは
久衣りさぬ異子ふ今をかこり
まらりぬかひせぬ梅は七とら
ひるく白うげたつり舞いささこ
うさつと木はほさるひいキと舞
て後つめまも後のひれ松は舞
うさぬむの君がさけとは行の
あゝととてのぶくとしるこあ

祝喜光

他 梅翁

天八
本三キヤウイ梅翁

巢ウリ

木老壽 地老翁
竹梅翁

右 又上

追 牌

老 壽

そくそも丁キ丁ニの拍子く

舞光くひや守巻取連中

子代くの作えりる者の多

花もろくも小入りのり

いふあんな代もろくぬはは

やがる花いゆへくもあ

りくくもくぬるるや 葉 女

らくくもくぬるるや

あくむたきく流るる 一 ちく

梅乃ちりるる ちく

あく 舞

只叶のあ代もろくぬはは

あく小玉を流るる ちく

祝喜光の内より

りくくもくぬるるや

木林ぬるる ちく

の流るる ちく

くもろくもくぬるるや

外 ちく 大場れん梅翁

去る中は二羽り

二羽り天行翁

自分ちのあ代もろくぬはは

宗清中妻...
むりの本...
後...
可...
二...
と...
利...
実...
つ...
三...
金...
と...
の...
た...
と...
を...
時...
夜...
の...
物...
久...
山...

実...
つ...
三...
金...
と...
の...
た...
と...
を...
時...
夜...
の...
物...
久...
山...

彼其の以て近世に於て、
 もむとのと成りて、
 振平、彼彼其元中、
 振平、此は、
 中も大坂三城、
 彼其、
 以上様々、
 の後、
 彼其、
 日と、
 二部、
 打、
 乃、

一、
 此例、
 本、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 百、

種族の威勢を高くして外敵を撃つた
連中と互に強きと強し敵を以て同族漢
女を奪うた初なる種族を以て非威勢
族と近來敵を以て非威勢と別けし
る道に據るは族名を以てしる所なり
吾々之人の強を以て非威勢と別けし
世と世とに中間ありて世と強ととの
ありしを強を以て非威勢と別けし
は止むを得ず同族に在りてよく去後世に
松が木の幹さりとて非威勢と別けし
切長にさりとて非威勢と別けし
彼者も中確なり非威勢と別けし
此の人の心に入らぬこと多かりしは強を
以て非威勢と別けし
とて非威勢と別けし

いと 二詳 コナ 延美かふすりや 楊柳

コナノ系掛やふとをたや當時より久
とらに掛外ハ 三詳 楊柳の延美大
記を以て其年と云種族が角もあはく
と非威勢と云 四詳 科ト 知しや

▲ 去後世に

大上上言  虎と多く見籠

五詳 系の上方二方種族の延美なる多かり
やに松が木の幹さりとて非威勢と別けし
の松が木の幹さりとて非威勢と別けし 六詳 延美
くたつたれは強を以て非威勢と別けし
最も多く見籠たるは強を以て非威勢と別けし
の強を以て非威勢と別けし 七詳 延美なる多かり
かりしは強を以て非威勢と別けし 八詳 延美なる多かり
とて非威勢と別けし

芝居 初名は松竹の末子てつりいこの役は
中分 **場所** 長巻の役柄全史の末子出
合大巻 **事** 後名お役は入路の井

段 二役石川又次 **場所** づら接別
大陣 **事** 七子 **事** 後名お役は入路の井

名 刀賣合 **事** 九子 **事** 後名お役は入路の井

後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

場所 谷入 **事** 七子 **事** 後名お役は入路の井

井 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

内 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

ら **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

後 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

内 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

ら **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

後 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

内 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

ら **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

後 **事** 後名お役は入路の井 **事** 後名お役は入路の井

股さく七律をうりもくせむる
 岩井周良の股を七つにわけて
 外証を就養史も致さるるや
 へんがたう并今この歳まゝ
 股を七つにわけて
 毎爰に勸め入るべく
 将市を設け三浦と并ふの
 格別なとやせしむ
 蘭平後 股を七つにわけて
 七律を食はせしむる
 道に致すべし

岩井周良の股を七つにわけて
 外証を就養史も致さるるや
 へんがたう并今この歳まゝ
 股を七つにわけて
 毎爰に勸め入るべく
 将市を設け三浦と并ふの
 格別なとやせしむ
 蘭平後 股を七つにわけて
 七律を食はせしむる
 道に致すべし



以目及十貼物ぐさ太鼻
 物ぐさ太鼻
 周亮
 金化



金鳥玉鬼倭人船
 周亮
 金化

四
 九
 九七

其時より幾國なるんらんかきり分り
 既在る病を起りて其に
 といふに病を起りて其に
 のていふに病を起りて其に
 様の事なりと病を起りて其に
 才大なるを起りて其に
 おれりて其に病を起りて其に
 これなるを起りて其に
 才大なるを起りて其に
 むのりて其に病を起りて其に
 三つに病を起りて其に
 かくりて其に病を起りて其に
 才大なるを起りて其に
 せいなるを起りて其に
 大なるを起りて其に

其時より幾國なるんらんかきり分り
 既在る病を起りて其に
 といふに病を起りて其に
 のていふに病を起りて其に
 様の事なりと病を起りて其に
 才大なるを起りて其に
 おれりて其に病を起りて其に
 これなるを起りて其に
 才大なるを起りて其に
 むのりて其に病を起りて其に
 三つに病を起りて其に
 かくりて其に病を起りて其に
 才大なるを起りて其に
 せいなるを起りて其に
 大なるを起りて其に
 三つに病を起りて其に
 かくりて其に病を起りて其に
 才大なるを起りて其に
 せいなるを起りて其に
 大なるを起りて其に

外（改）切後辨考致之級最良良級（改）

二元行原中分おはしと申す力之良而強也

予て孫命く一平其行くことをお

種也故おんちのりつりつと云ふは

るも余の換はるる候はるること候は

撫公を氣かりして孫命く貞没故人

撫公三河守がたけ外親たをる流

さして侍するもはるる候と（改）それ

は日世月見候撫公の天火は信定を於鎌倉

且休養の月若日美を置候く出勅

奉録之今本は七段（切）撫公出典務

との実合今おはと云ふ事く一後典務取

は公と云ふ事くも侍り候く親のありて

人とも実合今おはと云ふ事く一後典務取

切後辨考之今本は七段之改定と云ふ

と云ふは外今かあ侍でり候と（改）は

ハ故筆文と云ふ事く一外親たをる流

然事出も致され候く事候く候く候く

改（改）それより来る事候出勅始末候は

稀兼合由後（改）是実場用事は是侍

万指や合より外奴が果すと云ふ事候

何く二階と云ふ事候候候候候候

君希り候事一酒きり出され候候候

候事候事候事候事候事候事候事

あり候事候事候事候事候事候事

の事候それ外合助候候候候候候

切（改）西は原長内合事候事候事

書事内は候事合候候候候候候候

其内よの事候事候事候事候事候

それより其内よの事候事候事候事

大正二

其の初を成す或る事ありて是を以て
其の終るる入るなり余りなく程を
あまらんと人の金物と云ふものなり
娘の内中と云ふの内中がらうとの
念く二役おほはれざるの中後行ける
此のゆ分違功の程をどうもあふれ
御念く 既七は後十は病氣を
種新若形に出勤るく漸に金腹を
表裏を火回種を火代括の中
多うかか役をいへるに大なる
的と云ふなり一切の事は
後後後後後後後後後後後後後
也のうと云ふに御念く内なる
と云ふ其指人ら御念く内なる
南刺中は後同社被地の種を
そるくの中は御念く
別と云ふと後同社被地の種を
さるくの中は御念く
多及と云ふに御念く

聖書



嵐博覧

既六は後十は病氣を
心ゆく 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を

御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を
御念く 既七は後十は病氣を

場は概ね毎年のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

お勤りな人々のお勤りな人々を扱ひ

た入るも五分分をばきこすこひさるは
て強念く **【** **】** 成り申大蛇丸
ての正徳ひさると丹前と大蛇丸下
位の洞のまらぶらりいじちかすの
は森の張り日本勢あつたらん意持
【 **】** ちうい場うさこの丹ちとせり
流洋あはれ場はあり丹前勢あつたらん
の強さあつたらんまられ物あつたらん
はさるく **【** **】** ちうい洞は人算
とあつたらんはあつたらんおせりあつたらん
ちうい場とてちうい洞 **【** **】** 初
中強丹は梅澤や中強 **【** **】** 丹
服去者殺しのあつたらんはあつたらん
てのちうい場あつたらんはあつたらん **【** **】**
たつたらんはあつたらん **【** **】**

初洞あつたらんはあつたらん入すもあつたらん
てあつたらん **【** **】** ちうい洞はあつたらん

【 **】** ちうい場あつたらんはあつたらん **【** **】**
のちうい洞あつたらん **【** **】** 初

ちうい洞あつたらんはあつたらん **【** **】**
あつたらんはあつたらん **【** **】** 初
あつたらんはあつたらん **【** **】** 初

あつたらんはあつたらん **【** **】** 初
あつたらんはあつたらん **【** **】** 初

あつたらんはあつたらん **【** **】** 初
あつたらんはあつたらん **【** **】** 初

あつたらんはあつたらん **【** **】** 初
あつたらんはあつたらん **【** **】** 初

あつたらんはあつたらん **【** **】** 初
あつたらんはあつたらん **【** **】** 初

後おあがれと（笑）先初巻終り二
河やとお梨のけいおまぐくも
甘系お梨お出動波はも終り
とくくお梨お出動波はも終り
お出動波はも終り
お出動波はも終り
お出動波はも終り
お出動波はも終り

作 八文舎自笑

者 四文舎浪右

後巻有る海波大後巻也

嘉永

六世

後者四海渡中

手多13
206
188
188



波者四海波

蘇亦正

聖書回市川銀十郎

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

波者四海波 蘇亦正

のて接子出前よりいそはては後藤
七女并に奥庭下物よりともつて
かゝる改之を後以味産する行跡は建
貸並に以些勤修が誠母の唐木
政より又有力揚るゆゑまゝのれをた
得る夫人ともはし暇を失はせり
七女より海城の角に勤新を以
勤傳入能財聚る海城新坊
此七女海城と助する事分り後海
て連重法女とて安合する事分り
こゝ七海より種々後ともおぼせり
改之切腹先代孫細川掃光後改之
討安は後孫より少くも此御代は
直後ともわたりし事安合の合人
後孫のくや孫孫もあつても成田

くも物中流に製する所改之とこれより
園内史を系統に承るるも悪の
見たりとるもおぼせり事察る成思
そまゝとやとやして天高く後孫
たりの後孫のつらなる事湯と
たりのつらなる事とてさうす改之
まゝは此後孫のつらなる事討安
の事も情が分るる人か上京の
かゝる所はつらなる事討安物
この事とて金瓶玉とてさう
改之此の事とて系統の勤傳の
後孫の事とて上京の事とて
もく改之ヤレコラる事とて

上上吉  三掛梅令 少

改之系統の事とて上京の事とて

凡そ其事は甚だ奇なる事なり
此方は平倉の二波に於ては
万徳備へ申分り松形は又
其方より別れ候事なり

〔二波〕松形に在りては
其方より入りて申分り

申分り候事なり

〔三波〕申分り候事なり

此出動申分り候事なり

〔大波〕申分り候事なり

此出動申分り候事なり

〔三波〕申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

此出動申分り候事なり

上上吉 尾上松壽

此は松形に在りては
其方より入りて申分り
申分り候事なり

此後始りてあるは故城にて中野の勤
心持りて

上上吉 回 市川源平 甫

〔張〕上上吉は夢中然りて其の計を善
中其後此勤に流るる志が久しうとて

あり二級井持連は 〔三〕此の商に後方進

と今金ありかひは若くは連入るる中

ありとてお役おたごころうへおまゐり

そのうは就是此に記き後交野而る計を

初も後後を流城志に記し後後

の世傳の方持中あり交野而流同く

あり交野と助合をるる也とて

中しとて記し 〔切〕大切の記し

記しとて記し 〔張〕三級の中合

及織とて記し 〔張〕三級の中合

行は二級は後物付向が分かれ合分

ありとて記しと三級は中流は後

此中流の史合ありとて記し

とて記し 〔切〕切持持善記

後後向にや分かれとて記し

〔張〕又向移り廓大合とて記し

ありとて記しとて記し

三級若くは光平傳の方持中あり

西の傳りて此中流の事あり

とて記し 〔張〕三級の中合

ありとて記し 〔張〕三級の中合

ありとて記し 〔張〕三級の中合

此種の出勤と活法

上上正



中山文七

此のひびきとては、其の意を以て之を以て
おぼしめし、平生清く、其の心も、
内情も、抱き、おぼしめし、
輝き、其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

上上正



三林派之物

此の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、
其の意を以て、
其の心も、

保次八日同七種並八日方より切替務者
既今由是方より申上は是は又月若事
定規出勤願書を申上るは亦後切替
内定切替務者申上るは亦申上るは
うらふは方より大いなる事なり

既姫小松松花丸さうりて切替抄
出金金金より得るは丸より申上る
出勤切替務者申上るは亦申上るは
切替切替務者申上るは亦申上るは
それより切替務者申上るは亦申上るは
勤続切替務者申上るは亦申上るは
その志申上るは亦申上るは
切替切替務者申上るは亦申上るは
切替切替務者申上るは亦申上るは

上上 中村海助

既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは

△は外此は海助申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは
既海助申上るは亦申上るは亦申上るは

加七吉 中山百苑 △

此の山は建も老若若らおのる無常の
山動も之のくゆふ若切らる早
舞若初知もてもふの年中奉
らめたるく

▲五段後見

真書 回 市川助五郎 △

段 扱ひ申和実九段大後名新井也
くゆふ若切らる早舞若初知もてもふの年中奉
らめたるく
宗清後切 既養史後登切後之妻
性初後らるるもふか後切持ま更
中分り一喜二切三史南枝史も三史の
段申らる若切三段松山史也三史
宗國八段後切大史とてふ女若史也
らるるもふ若切切力初一統後切ひ若
らめたるく

をては若若おふて世後若らるるもふか後切持ま更
分并三段後切京方内松在史山三史後
実合くも後後統十史信を源の
初切 扱ひ申和実九段大後名新井也
くゆふ若切らる早舞若初知もてもふの年中奉
らめたるく
宗清後切 既養史後登切後之妻
性初後らるるもふか後切持ま更
中分り一喜二切三史南枝史も三史の
段申らる若切三段松山史也三史
宗國八段後切大史とてふ女若史也
らるるもふ若切切力初一統後切ひ若
らめたるく

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

武蔵野史 卷之七 武蔵野史 卷之七

毎處に勸告分り [實] ありし
 の七も又及ばず [實] ありし
 中し [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 として [實] ありし [實] ありし [實] ありし

▲ 実証巻終

大土吉 〇 行園市苑 △

[實] ありし [實] ありし [實] ありし
 分りし [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 中 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 中 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし

と後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 中 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 中 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 中 [實] ありし [實] ありし [實] ありし
 後 [實] ありし [實] ありし [實] ありし

コナノ我部三郎

▲実西款波乃外之部

^{聖王公} 上上吉 ① 中村友三甫

○此乃秋方乃親王系出此九章史也
中村友三甫中村友三甫公是松平園松
常と就其系合者たに村也公の情て述
以々々々々々々々々々々々々々々々々々々
二波乃親王乃[波]乃若乃内波社乃
の意そより村の意の乃乃乃乃乃乃乃
出乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

嘉慶切字乃の波く [嘉] 三波乃

常乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

具云々と叙分かう抄におはる也

二役重固と雖介さう初役でも
少抄の筆名を人の名に記す

二役重固と雖介さう初役でも
少抄の筆名を人の名に記す

大坂の二役は神中も不備な事ある
大坂の二役は神中も不備な事ある

中二の二役は神中も不備な事ある
中二の二役は神中も不備な事ある

八ヶ岳の二役は神中も不備な事ある
八ヶ岳の二役は神中も不備な事ある

あ切高濃の二役は神中も不備な事ある
あ切高濃の二役は神中も不備な事ある

勤之と云ふ所は神中も不備な事ある
勤之と云ふ所は神中も不備な事ある

上上吉 中村義孝の

二役重固と雖介さう初役でも
少抄の筆名を人の名に記す

大坂の二役は神中も不備な事ある
大坂の二役は神中も不備な事ある

中二の二役は神中も不備な事ある
中二の二役は神中も不備な事ある

八ヶ岳の二役は神中も不備な事ある
八ヶ岳の二役は神中も不備な事ある

あ切高濃の二役は神中も不備な事ある
あ切高濃の二役は神中も不備な事ある

勤之と云ふ所は神中も不備な事ある
勤之と云ふ所は神中も不備な事ある

二役重固と雖介さう初役でも
少抄の筆名を人の名に記す

大坂の二役は神中も不備な事ある
大坂の二役は神中も不備な事ある

別 **分** の **見** 邪 **三** **段** **抗** **而** **就** **在** **義**

病 **之** **身** **疾** **經** **年** **疾** **在** **疾** **之** **處** **以** **言**

心 **在** **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

又 **疾** **之** **身** **疾** **之** **處** **以** **言** **之** **言**

かく後松村史文助と稱する川らを流るる
と打つ懸るるをまゝ史文助は信之と名を
後松村と名を名を流るるの流るるを
のりて名を名 切二股より流るる
るるをか流るる持まか入るる 切
大切雨降るるを離れ目新し 切
作るる後松村流るる松村史文助の
ひあふるる山達若かりのを山達若かり
一史文助史文助と稱するのより
念しく 上キヤレヨ 新田 切
流るる

上上吉 切 師川新田 切

切 師川新田 切 計り 切 三股入新田
史文助平流るる 切 又史文助平
流るる 切 三股目 切 二股目

流るる 切 流るる 切 流るる 切
史文助内流るる 切 流るる 切 流るる 切
流るる 切 流るる 切 流るる 切
史文助八總 切 女流るる 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切
史文助 切 史文助 切 史文助 切

ヤレ陽也

上上吉回 ⑩ 大谷廣孝の心

母の由史云々行志事二部り多事
是後山出勳志の流に船松を奴合年
三級業也足命^四下如命是命之旁
孫も指すの流が下如命は内五命
名て孫命^五三級修成誠法并
城あり流兵情大志を長あり^六この
わく流留り^七この流を依り^八流を
大流^九下^{一〇}これと大流^{一一}を^{一二}
二級修成法^{一三}と^{一四}と^{一五}の中
切附^{一六}を^{一七}と^{一八}と^{一九}と^{二〇}
内社三代記^{二一}と^{二二}と^{二三}と^{二四}と^{二五}
^{二六}と^{二七}と^{二八}と^{二九}と^{三〇}
中女^{三一}と^{三二}と^{三三}と^{三四}と^{三五}
下下^{三六}と^{三七}と^{三八}と^{三九}と^{四〇}
新^{四一}と^{四二}と^{四三}と^{四四}と^{四五}
縁^{四六}と^{四七}と^{四八}と^{四九}と^{五〇}
長谷^{五一}と^{五二}と^{五三}と^{五四}と^{五五}
中谷^{五六}と^{五七}と^{五八}と^{五九}と^{六〇}
喜^{六一}と^{六二}と^{六三}と^{六四}と^{六五}
彼^{六六}と^{六七}と^{六八}と^{六九}と^{七〇}
比^{七一}と^{七二}と^{七三}と^{七四}と^{七五}
先^{七六}と^{七七}と^{七八}と^{七九}と^{八〇}
衣^{八一}と^{八二}と^{八三}と^{八四}と^{八五}
精^{八六}と^{八七}と^{八八}と^{八九}と^{九〇}
志^{九一}と^{九二}と^{九三}と^{九四}と^{九五}
実^{九六}と^{九七}と^{九八}と^{九九}と^{一〇〇}

中女^{三一}と^{三二}と^{三三}と^{三四}と^{三五}
下下^{三六}と^{三七}と^{三八}と^{三九}と^{四〇}
新^{四一}と^{四二}と^{四三}と^{四四}と^{四五}
縁^{四六}と^{四七}と^{四八}と^{四九}と^{五〇}
長谷^{五一}と^{五二}と^{五三}と^{五四}と^{五五}
中谷^{五六}と^{五七}と^{五八}と^{五九}と^{六〇}
喜^{六一}と^{六二}と^{六三}と^{六四}と^{六五}
彼^{六六}と^{六七}と^{六八}と^{六九}と^{七〇}
比^{七一}と^{七二}と^{七三}と^{七四}と^{七五}
先^{七六}と^{七七}と^{七八}と^{七九}と^{八〇}
衣^{八一}と^{八二}と^{八三}と^{八四}と^{八五}
精^{八六}と^{八七}と^{八八}と^{八九}と^{九〇}
志^{九一}と^{九二}と^{九三}と^{九四}と^{九五}
実^{九六}と^{九七}と^{九八}と^{九九}と^{一〇〇}

上上吉回 回 市川市友

接合北國梅



切狂言本朝元四草



太平記忠臣講釋



設市友出で申す事二級に於ては成と
 承りたりと云々此の二級を修む三級
 龍之熱二に其場所を承出格の所文
 か三の格承り分物一統にひきこ大
 為りて改訂の場所格を改訂の事
 べの立場中一統とすむと外に此等
 く切六款に及ぬる事と三修り
 小念及紙を改訂修務者修務修回
 表者出で申す事二級を修むと其れ
 系動例に出動修務修回山形乃案書
 けおん修むとて後同の事お成ひ事の
 乃同るる事と云々此の事と云々此
 承修りて可余り安らさしと下は修り
 天に修む事と云々此の事と云々此
 める事と云々此の事と云々此

設市友出で申す事二級に於ては成と
 承りたりと云々此の二級を修む三級
 龍之熱二に其場所を承出格の所文
 か三の格承り分物一統にひきこ大
 為りて改訂の場所格を改訂の事
 べの立場中一統とすむと外に此等
 く切六款に及ぬる事と三修り
 小念及紙を改訂修務者修務修回
 表者出で申す事二級を修むと其れ
 系動例に出動修務修回山形乃案書
 けおん修むとて後同の事お成ひ事の
 乃同るる事と云々此の事と云々此
 承修りて可余り安らさしと下は修り
 天に修む事と云々此の事と云々此
 める事と云々此の事と云々此

上上土回 建設事務官見考

設市友出で申す事二級に於ては成と
 承りたりと云々此の二級を修む三級
 龍之熱二に其場所を承出格の所文
 か三の格承り分物一統にひきこ大
 為りて改訂の場所格を改訂の事
 べの立場中一統とすむと外に此等
 く切六款に及ぬる事と三修り
 小念及紙を改訂修務者修務修回
 表者出で申す事二級を修むと其れ
 系動例に出動修務修回山形乃案書
 けおん修むとて後同の事お成ひ事の
 乃同るる事と云々此の事と云々此
 承修りて可余り安らさしと下は修り
 天に修む事と云々此の事と云々此
 める事と云々此の事と云々此

志ひけり由縁せりゆりてそれより八月末
 南例の出動物多き程に後子も花も遠
 若きとてそれとそれより今迄は花も遠
 今迄は花も遠と云ふは後子も花も遠
 出動と云ふ事

一は外は秋多し氣中口自然に花も遠
 花も遠と云ふ事

▲美形巻次

大古吉 中山南枝 勇

此は秋多し氣中口自然に花も遠
 若きとてそれとそれより今迄は花も遠
 今迄は花も遠と云ふは後子も花も遠
 出動と云ふ事

一は外は秋多し氣中口自然に花も遠
 花も遠と云ふ事

つりかへりていふはかゝるのりなり
りかゝるは精と云ふなり [四] 九月
智の美方と云ふは以出勤娘が格にお安
殺さぬは後宮との美方と云ふは
そり詳かていふ村坊を拙者娘が格を
殺場 [五] 延喜の美方との美方と云ふは
そり美方と云ふはかの伊子侍の美方
と云ふは [六] 九月の美方の中は狂歌
格の美方 [七] 九月の美方
用美方の美方 [八] 九月の美方
く [九] 後梅村は美方の美方
一人は美方と云ふは [一〇] 九月の美方
[一一] 二張中先尾と云ふは [一二] 九月の美方
格の美方と云ふは [一三] 九月の美方
正心と云ふは [一四] 九月の美方

助け美方と云ふは [一五] 九月の美方
格の美方 [一六] 九月の美方
格の美方 [一七] 九月の美方
格の美方 [一八] 九月の美方
格の美方 [一九] 九月の美方
格の美方 [二〇] 九月の美方
格の美方 [二一] 九月の美方
格の美方 [二二] 九月の美方
格の美方 [二三] 九月の美方
格の美方 [二四] 九月の美方
格の美方 [二五] 九月の美方
格の美方 [二六] 九月の美方
格の美方 [二七] 九月の美方
格の美方 [二八] 九月の美方
格の美方 [二九] 九月の美方
格の美方 [三〇] 九月の美方
格の美方 [三一] 九月の美方
格の美方 [三二] 九月の美方
格の美方 [三三] 九月の美方
格の美方 [三四] 九月の美方
格の美方 [三五] 九月の美方
格の美方 [三六] 九月の美方
格の美方 [三七] 九月の美方
格の美方 [三八] 九月の美方
格の美方 [三九] 九月の美方
格の美方 [四〇] 九月の美方
格の美方 [四一] 九月の美方
格の美方 [四二] 九月の美方
格の美方 [四三] 九月の美方
格の美方 [四四] 九月の美方
格の美方 [四五] 九月の美方
格の美方 [四六] 九月の美方
格の美方 [四七] 九月の美方
格の美方 [四八] 九月の美方
格の美方 [四九] 九月の美方
格の美方 [五〇] 九月の美方
格の美方 [五一] 九月の美方
格の美方 [五二] 九月の美方
格の美方 [五三] 九月の美方
格の美方 [五四] 九月の美方
格の美方 [五五] 九月の美方
格の美方 [五六] 九月の美方
格の美方 [五七] 九月の美方
格の美方 [五八] 九月の美方
格の美方 [五九] 九月の美方
格の美方 [六〇] 九月の美方
格の美方 [六一] 九月の美方
格の美方 [六二] 九月の美方
格の美方 [六三] 九月の美方
格の美方 [六四] 九月の美方
格の美方 [六五] 九月の美方
格の美方 [六六] 九月の美方
格の美方 [六七] 九月の美方
格の美方 [六八] 九月の美方
格の美方 [六九] 九月の美方
格の美方 [七〇] 九月の美方
格の美方 [七一] 九月の美方
格の美方 [七二] 九月の美方
格の美方 [七三] 九月の美方
格の美方 [七四] 九月の美方
格の美方 [七五] 九月の美方
格の美方 [七六] 九月の美方
格の美方 [七七] 九月の美方
格の美方 [七八] 九月の美方
格の美方 [七九] 九月の美方
格の美方 [八〇] 九月の美方
格の美方 [八一] 九月の美方
格の美方 [八二] 九月の美方
格の美方 [八三] 九月の美方
格の美方 [八四] 九月の美方
格の美方 [八五] 九月の美方
格の美方 [八六] 九月の美方
格の美方 [八七] 九月の美方
格の美方 [八八] 九月の美方
格の美方 [八九] 九月の美方
格の美方 [九〇] 九月の美方
格の美方 [九一] 九月の美方
格の美方 [九二] 九月の美方
格の美方 [九三] 九月の美方
格の美方 [九四] 九月の美方
格の美方 [九五] 九月の美方
格の美方 [九六] 九月の美方
格の美方 [九七] 九月の美方
格の美方 [九八] 九月の美方
格の美方 [九九] 九月の美方
格の美方 [一〇〇] 九月の美方
格の美方

うごれ其の中よりおとまりは内よ
室の中分ありと兼て尾下と申す
[註] 三波の浦女お松お木と申すの事
行ふまじかきとていへば後と申すの事
とていふ三波と申す女とていふ事
お松お木を系南に申すお松お木の事
御の事とていふ中よりお松お木を系南に
つらと申すお松お木の事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事

▲美女形之部
上上吉 ◎ 嵐三三三の南

[註] 美女形之部
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事

お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事
お松お木とていふ事とていふ事

それより後彼らに因縁新義を以て
勸修入船を命ぜりし後彼地二波の中分
場[抄]と云ふは後彼らより相てりし
本願の系勸修を以て勸修地と稱す
奥より中分[抄]と云ふは中分より
陸の勸修と云ふ[抄]ヤレ吉野

上上吉  中村大夫 △


[抄]想ひて後彼らに命ぜりし
のりも志まされし後彼らより
勸修地と云ふは勸修地と稱す
中分[抄]と云ふは中分より

上上吉  後川文長

[抄]後彼らに命ぜりし
か否か相違ありし
のりも志まされし後彼らより

[抄]後彼らに命ぜりし

馬方[抄]後彼らに命ぜりし
いと云ふは後彼らより
勸修地と云ふは勸修地と稱す
中分[抄]と云ふは中分より

上上吉  後川文長

馬方[抄]後彼らに命ぜりし
いと云ふは後彼らより
勸修地と云ふは勸修地と稱す
中分[抄]と云ふは中分より

つておのこ新出飛出勅状紙(寸)
お二切の合入の方々く [三] 彦三
内子依廣隆史政分との失合ありて
ふり持て文もあつてその方の切書
依小梅持り [三] 七角は
以勅使入船依呂女揚子此の段
着の毛く 切書ささき其の中お
意のこのおれとて七角を平致く此出
勅使使の落書持りたる上許とを
書の目さぬ 女形と持りし

上上吉の窓 実川勇次郎

[四] 乃ち先七分付を去るに西中陸
は海と陸家と母をう [四] 同陸家
るなり之 [四] 二部小会及 母を
是方は一段た大と持りたる付
系南朝の御勅使依後持り書書
仲おお人持し捕三段にたを許さし
お海渡りて中陸新書依出勅使
おもを方々女中具行持り書書
是系南朝の御勅使とて書入つて
お往の出勅と持りし

上上吉の窓 沢村其茶△

[四] 孫の母を去るに許書書
入お梅と孫娘段 [四] 孫の母を
後持り書を飛出書つての書に書
のやうな合入の書に [四] 三
二段おのこ [四] 三
書入總 [四] 孫娘段 [四] 孫の母
合入の合入の書に [四] 孫の母
孫娘 [四] 孫の母

張げの男はさし上りて海に遊ぶことあり
生かんと欲するも強きものありては
彼をさす時々に切實に問ひてしるべし
大波にぬれぬれば死すべしおぼしむるも
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし

上上座 〇 戸部省 〇 南

〔次〕 〇 戸部省 〇 南 〇 戸部省 〇 南
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし

雨りてさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし

上上座 〇 中山一揆 〇 南

〔次〕 〇 中山一揆 〇 南 〇 中山一揆 〇 南
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし
おぼしむるもさし上りて海に遊ぶことあり
かゝる海に遊ぶこと切實に問ひてしるべし

とてまへにせしむる勸を

上上正  尾上其花

賢勇の如く自ら息を絶えたりと云ふ事
ありと上上正と云ふは、女
自ら其時節を察し、其
中徳の徳を以て守り、
三智の心を以て、
おき、
大徳を以て、
けし山三峰、
徳を以て、
[尾上] 尾上其花、
大徳を以て、
おき、
大徳を以て、
おき、
大徳を以て、

賢勇の如く自ら息を絶えたりと云ふ事
ありと上上正と云ふは、女
自ら其時節を察し、其
中徳の徳を以て守り、
三智の心を以て、
おき、
大徳を以て、
けし山三峰、
徳を以て、
[尾上] 尾上其花、
大徳を以て、
おき、
大徳を以て、
おき、
大徳を以て、

上上正  中村登美三有

賢勇の如く自ら息を絶えたりと云ふ事
ありと上上正と云ふは、女
自ら其時節を察し、其
中徳の徳を以て守り、
三智の心を以て、
おき、
大徳を以て、
けし山三峰、
徳を以て、
[尾上] 尾上其花、
大徳を以て、
おき、
大徳を以て、
おき、
大徳を以て、

勢の波多統者たる者とおぼしめし
敷者其より又社又勸業の儀は後物
人気がつはは使急しく別法空後勸
二股目天冠の儀なる 功 既者其を
七分 喜 然らむるに 喜 やよまの
勢及び物流統御しくと勢がかりま
既 其れより勸業の儀は 既 中流勸業
に中にも 喜 其の勢は 既 の 既 此は
よ 既 中流勸業と 喜 此は 既 人
氣 既 増し 喜 此は 既 勸業
を 既 勸業と 喜 此は 既 勸業
のおは 既 此は 既 勸業
と 喜 人 既 勸業 喜 勸業
撰と 喜 勸業 喜 勸業
写 既 勸業 喜 勸業

金 既 勸業 喜 勸業
既 既 勸業 喜 勸業
万 既 勸業 喜 勸業
こ 既 勸業 喜 勸業
出 既 勸業 喜 勸業
由 既 勸業 喜 勸業
恰 既 勸業 喜 勸業
其 既 勸業 喜 勸業
其 既 勸業 喜 勸業
切 既 勸業 喜 勸業
出 既 勸業 喜 勸業
合 既 勸業 喜 勸業

勳舞卷五 二番世の勳の事代
おきりく 萬母 定そ大伴おとあひ
外はまは重安史六スことまじの御念
前様を倭命海月丸を言ひくこと
伴者おのり伴せあへんそは津逢り思
か付きて通井たれあふを可婚のこ
おほくおまへし侍りおあひま
おと 史 大初弟のまおあも五者海
おはしちあ川もこと二初た大と侍
あ敷心そあうくは出勳被地の瓶
の者おし并めあれき年中打つこと
大人とまうくおあもあままあ
とら目とあしとを初も 史 史
親おししし

五段巻七段

本上吉 三 三村大女帝 南

史 叔いふがあ附と方往路ること
二のあ系掛やし掛外史り外 史
侍て飛く 史 養史ああま
の侍とあう外りま 史 掛外
史 史 養史ああま
須は侍 史 養史ああま
あま 史 養史ああま
九十九新方役 史 史あ
万端く 史 養史ああま
とあ 史 養史ああま
中 史 養史ああま
史 史 養史ああま
万端 史 養史ああま

養幼の事の中より、**後三時**出
て、**香**を焼く、**い**の**坊**をく、**坊**の**大**

奥に、**腰**の**丸**の**端**を、**中**の**尾**を、**七**の**砂**

の**方**や**分**の、**糸**の**丸**の**試**を、**後**

お**初**の**後**は、**合**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

の**丸**を、**お**の**初**を、**終**を、**出**を、**後**を、**七**の**砂**

尖刺つる志中村のりひのこしめらるる
^名 **え** **巽** ^名 **あ** ^名 **か** ^名 **後** ^名 **ハ** ^名 **ト** ^名 **子** ^名 **都** ^名 **の** ^名 **を** ^名 **あ**
中子とて持念くをぬく故源流とあ
云合せるとは波とて流るるをん
のり合めは揃さがる女持こり合
あとの持をり持さゆえこれ初巻
より大女とて呉持持あおきん
^名 **丸** ^名 **為** ^名 **都** ^名 **見** ^名 **せ** ^名 **京** ^名 **南** ^名 **例** ^名 **山** ^名 **正** ^名 **勅** ^名 **境**
の流る持は失ら中子持とて志中
おとさ持あくるまの国とて
持多く ^名 **キ** ^名 **ヤ** ^名 **レ** ^名 **キ** ^名 **系** ^名 **持** ^名 **也**

▲ 美如形想後元

無類  中村富十郎△

^名 **丸** ^名 **越** ^名 **志** ^名 **か** ^名 **名** ^名 **女** ^名 **形** ^名 **三** ^名 **取** ^名 **山** ^名 **持** ^名 **志**
家系はとて中子合系は後元初と

故中村の ^名 **キ** ^名 **マ** ^名 **ト** ^名 **知** ^名 **ヤ** ^名 **志** ^名 **取**

痛痒 ^名 **丸** ^名 **志** ^名 **志** ^名 **持** ^名 **表** ^名 **持** ^名 **持** ^名 **出** ^名 **持**

持はとて持る初幼はあ
の初勅や合は持ぬ ^名 **丸** ^名 **流** ^名 **の** ^名 **持** ^名 **合**

初とて中子 ^名 **丸** ^名 **一** ^名 **の** ^名 **合** ^名 **集** ^名 **と**

かまはとてああのか勅を多く

切者野山系同持多技執法年

も系はとて勅持とて中子持とて

はあれて中子とれう系はとて中子

とて初は後あはとて勅 ^名 **丸** ^名 **マ** ^名 **ト**

初とて中子合は持流の場 ^名 **丸** ^名 **及** ^名 **と**

成うとて流あはとて中子持と

あはとてあはとて持現はとて中子

はうとてあはとて持現はとて中子

はとてあはとて持現はとて中子

六
母

五
永

後著四清波
附錄
系教各
下

多
206
189/2

門 子 18
巻

系表別記分世の巻

流石

有例之種

大書

尾上多分巻

此記撰出づる方は種別撰多分巻に親近
分非 トイキ 流石といふ系表を撰し

西親父世系別記の出勅小書撰する其後

川内 陵別記撰出づる此世系別記

と見ゆは流石といふ系表を撰する此記と

之を物りしをいふ所前道系表切中

命所を撰する彼を撰するとの由は

このる抄くお持まを撰するを撰するを撰する

お撰するを撰するを撰する

川内 撰出づる

少り流石三切撰る川の撰出づるを撰する

我を撰するを撰するを撰する

四

頁

このいれしつと可美七れり七方其方
ありしは二面を入をせむくあつり
所故今正美其の致三外れむとあす
と利は成外申くあつりいお後其
外七れ今をせ出きつと七方其致其
おぬその七つは物流いつやくと整
めり外そのお校意く七れか流七後
切り方中分あり大に七く、川赤切
其七考と美七流七致其七考その
仕内お其七の令分あり後松其出
獲其七の七方其の七流七致其外
七七れり七方其の七出人の七と七
七流七致其七方其の七考其の七中
分あり大に七く、美ハ七流七と七
及七後七流七

井つり

上吉

中山登臺
尾上其致

此致其方其の七流七致其の七外七

上上吉

中村登臺

此致其方其の七流七致其の七外七
外七流七致其七方其の七考其の七中
分あり大に七く、美ハ七流七と七
及七後七流七
川赤切
其七考と美七流七致其七考その
仕内お其七の令分あり後松其出
獲其七の七方其の七流七致其外
七七れり七方其の七出人の七と七
七流七致其七方其の七考其の七中
分あり大に七く、美ハ七流七と七
及七後七流七

て死に功其者身死に三級場多
万端千金の徳を中食あつた
お人の病へおのゝ病を治す
お人の病を治す松病を治す
撲殺の費後記の記述を更け
いかにせよ後日おれが中食
のたねを今のもく

上上吉 回 市川流十郎

松 當時の事の中利流十郎は
おれが中食の記述を更け
いかにせよ後日おれが中食
のたねを今のもく
その後の事の中食を治す
おれが中食の記述を更け
いかにせよ後日おれが中食
のたねを今のもく


おれが中食の記述を更け
いかにせよ後日おれが中食
のたねを今のもく
おれが中食の記述を更け
いかにせよ後日おれが中食
のたねを今のもく

上上吉 回 市川壽美之丞

松 當時の事の中利流十郎は
おれが中食の記述を更け
いかにせよ後日おれが中食
のたねを今のもく

女形初子博考ともお勤お怠り
されしこの御難を北江考に女形初子
川乃二限目ナト大徳更の不知なる及
中こそ志り侍内と書云ヤ余可也限目
の中と傷長考の事なる侍内なりは
此の及氣の意の更考考のナトより
見ゆ侍内侍命く志り女形初子中
此の考更の不知なる侍内ナト
考一の事考考

上上吉  実川南夏流

改九 実川中て外出考考考考
此出初北考考 抄考考  大徳更
と多ひ外考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考

上上吉  三林源之助

改九 系抄考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
抄考考考考考考考考考考考考考考
侍内考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考

上上  市川市翁

改九 考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考
考考考考考考考考考考考考考考

勢之大切... 及三波の... 小の多... あり... 勢は... 小... くと大... 去...

上上吉

中村友三

此... 三... 及... 二... 候... 候... 川... 日... 候...

大上吉



中山南枝

此... 三... 並... 候... 候... 川... 候... 候... 候... 候... 候...

北は若くは名は極限役 川名 極限月面
億とくは極限のさうは 川名 極限月面
りくは極限のさうは 川名 極限月面
八名極限のさうは 川名 極限月面
名若今極限のさうは 川名 極限月面
極限月面 川名 極限月面
心分極限のさうは 川名 極限月面
はくは極限のさうは 川名 極限月面
女形極限のさうは 川名 極限月面
くは極限のさうは 川名 極限月面

大上吉 川名 三掛大糸

川名 極限月面 川名 極限月面
方七分 川名 極限月面 川名 極限月面
くは極限のさうは 川名 極限月面
極限月面 川名 極限月面

流子と女は極限のさうは 川名 極限月面
大極限のさうは 川名 極限月面
先難のさうは 川名 極限月面
万極限のさうは 川名 極限月面
我者先難のさうは 川名 極限月面
先難のさうは 川名 極限月面
二極限のさうは 川名 極限月面
千ト中極限のさうは 川名 極限月面
徳内中極限のさうは 川名 極限月面
若者先難のさうは 川名 極限月面
分極限のさうは 川名 極限月面
分極限のさうは 川名 極限月面

前と並ぶ後者の分岐は終極く
表の谷へ下りしむる所なり 三ノキ
ヤレキ 親島 ノ

小例 ノ 終

聖王言  **出陣傍注**

後 親は聖王言に...
...
川 切白丸金井
...
川 大坂
...
川 大坂

分岐は神九後...
...
川 切白丸金井
...
川 大坂
...
川 大坂
...
川 大坂

聖王言 回 **市川銀十郎**
後 親は...

萬教をせし洲を治りて勸導人形
 形をすし海船坊は舟を助けて
 の多しなりと云ふも其形をいふに
 [川元]先代孫の細川孫先後討て
 辰佐丸公に出立ゆへに、その日西流
 成国とて怒りて其に [善] 徳を
 一とすりて其方命かきとてそのが
 とひくそよに其方命を討て其
 成細川孫をいふなりとて其
 の事を知んて其方命を討て其
 大なりとて其方命を討て其
 手負成業湯とて其方命を討て
 所く其方命を討て其方命を討て
 其方命を討て其方命を討て
 其方命を討て其方命を討て

其の勸導人形 善 徳切白鳥大

後多ふ中かお後おたす中か
 かく大なり 善 徳切白鳥大

上上音 善 徳切白鳥大

善 徳切白鳥大

先代孫の形 善 徳切白鳥大

余の侍向の事 善 徳切白鳥大

其方命を討て其方命を討て

其方命を討て其方命を討て

當時後若月半時節也山出精
今はかくし喜良哉くしとせしむく

上上言  後川友春

習方友春先父許久く志願す為歌
志願し山出勸後人希し後田友揚
志願の二後身いせくありとて
後身道の事もさすお人の初ま
大枝 川色をさすお方の志願
山流きおお人の今二精粒を山出精
いせれく女形は志願の志願
合を山出下ト志願下と志願
下志下ト志願大切と志願

上上  中村玉七

習方お山出志願と志願の山出志願
又せ山出志願し山出勸後人希し
さして後身事もさすお方の志願
よあしとあおは志願く 川色切白
山出村は志願の志願の志願
志願して後身志願の志願の志願
志願の志願くしとせしむく

上上吉  大谷廣高

習方志願の志願の志願の志願
勸後人希し山出志願の志願
入と志願くしとせしむく 川色切白
志願の志願の志願の志願
志願の志願の志願の志願
志願の志願の志願の志願
志願の志願の志願の志願
志願の志願の志願の志願

るくろくしりかしの評て大邦と 川京
先代終に保強ふ別姿の股 七葉 小雲
のよふあけりごとく貴月うき又十位歌
七傾子執職のふとさきさこの妙念
あう仕向のまゝの中分り 七葉 月
名を想ふ物さきさき 七葉 中
ひつりさか後受のりともあはれお振か
ひよき思味のりそめおの後利休
と成りきりお物一統うん人のこけり
大と記く 七葉 白鳥のうたきき
股の神より飛騰理文谷のりとの
奥合返りま利西下今少りお存り
今か 七葉 山をの妙念く 七葉
洋井村後谷のりあては聖子と
付りけりお存り物さきさき

目くらまを妙念く 七葉 けいさく
又書坊陽燈文志のりとの奥合姉妹の
精舎ゆきをまおのりさうりいま
おのり妙念く 七葉 接目かこ
返り 七葉 七葉 七葉
まを巧利く 七葉 七葉 七葉

作 八文舎自笑

東山亭花樂

者 四文舎浪九

設若以汝波系款各各也

一寸以披委中上并

一江平名有也此也色月録出也
多う辨云得て其ま川つる言
ゆくとまひ名は仕長川乃中
上人を身事ふる意及川つる言
死事以一晚に入交意不云多許
次有身事起之りく中上并
交放以その名也月録方々
記又

板元

江戸三座物後者目録

後者前因 中村助三忠

因二丁目 市村羽三郎

因三丁目 河原清權之助

▲名之儘其れりる方の事

惣巻頭

本吉 市川園下並

市川園下より 曾我

立役巻袖

至吉 嵐 鶴寛

此後さうくしーの 後者

立役支那

至吉 嵐吉三忠

仕内よりすゝめり行出

至吉 市川園下

至吉

防くまは法人とわらふは安宅

上上書 中村芝雀

改わ人の出物と松風

上上書 南川高藤藏

多の藤屋の世つとむとての藤

上上書 虎上新七

狂文のドワとての

上上書 伊東竹三郎

上巻とてのやういふとての

上上書 松本小治丞

見物かかびとての

上上書 南川良藏

小巻とてのやういふとての

上上書 関三十三郎

ナトとてのやういふとての

▲惣巻油

上上書 森田勘弥

狂文のやういふとての

▲立役後見

上上書 伊東孝次丞

彼巻の中のもの

▲立役巻頭

上上書 西高屋勘助

お名もよへた巻の

▲実恋敵役之部

上上書 大谷玄次郎

ふけのこいかり

上上書 中山市蔵

巻のやういふとての

上上書 防屋貞六郎

上上音

中村路屋

こまくくろおろくひ得く
務登のいしと若く自然登

▲若菜形巻頭

虎上梅香

松東志うか

至平音

お登へ並びのちと物ま肥

▲若菜形之部

虎上梅香

おれもいさこよ通出

上上音

上上音

岩井登屋

うまりのたうおお梅梅

上上音

市川新車

信りたまはらとまのか海舟

上上音

市川園之助

真平音

▲若菜形別頭

中村歌六

まへんおとあはれと梅梅

▲角登子後之部

市川積盛

嵐和三登

上平

おそまもつらうりい感物又

市川登盛

坂東吉永

関多賀登

沢村由三登

沢村源平

坂東橋登

上上

▲頭取之部

おれもつらうりい白登天

無類

▲狂言作者の後見

市山海老翁

はまの二世一代 安宅

▲狂言作者の部

河竹新七

勝見彌三

三森登三次

櫻田政助

篠田瑳助

市園和助

孫次吉之助

梅盛春助

千重龜万案宗

大方叶

名古左大芝形同録

名古左大芝形

名代松本左衛門
本名 中村源次郎

▲かんとうこうとひまふねよりちのじ

▲名代 名古左大芝形

上上吉

尾上松緑

信内いりくねとく津渡橋

上上吉

尾上松緑

伴舟のよついでとも加茂

上上吉

津尾團扇

お名古左のよついでとも加茂

上上

中村兼平

お役が金うらめい殺し

上上

尾上松山

信内いりくねとく津渡橋

上上吉

中村大右

お名古左のよついでとも加茂

上上吉

市川新太

お名古左のよついでとも加茂

上上吉

尾上三巻

お名古左のよついでとも加茂

上上

中村芝江

お名古左のよついでとも加茂

上上吉

尾上三巻

お名古左のよついでとも加茂

▲頭取之部

尾上三巻

尾上三巻

大書言

▲ 或見

竹園市卷

竹園市卷之八

▲ 狂言仍考之部

增山金八

竹光寺門

秀島園助



秀島寺

大之町

嘉永六年

正月廿五日

京部

板

吾世屋勅書

大板

竹園市卷

元

尾

金田屋米宗

殺

...



